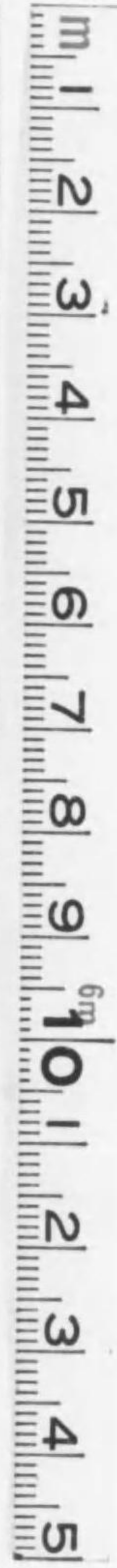


特279-14



1200601101913

考古圖集



始



特279



I 種

W



1200601101913

考古圖集解説 第三十集

石器時代土偶號 (一)

石器時代遺蹟より發見せらるゝ遺物に土偶あり、これが用途については種々の考察を容るべきを得べし。されど之が宗教的意義を有するものなるべしといふに最も可能性多きを思ふ。即ち石器時代の原始的宗教を察知すべき遺物たるべしとする先人の所説の妥當なるを知る。本集は東京帝室博物館所藏のものを主とし、之に加ふるに三四の新資料を以てせり。

(291) 石器時代土偶

甲斐國東八代郡黒駒村宇上黒駒小字中丸發見。腹部以下を缺失したるも、なほ高さ八寸三分あり、此の種土偶としは、頗る大形に屬するものなすべし。頭形顔面は半圓形をなすも、後頭部は繩文土器に往々見る耳(把手といふ學者もあり)の一種の手法に似たるものあり。顔面の奇異なる表情は人の注意を惹く。三つに裂けし口、釣り上げれる目の如き、普通のものに非ず。目及び頬にある篋書きは、黥を示すものにはあらざるか。頸より上膊にかけて散點文は毛を現せしものとも見るべし。胸にあてし手指は三本ある

(71)

第三十集 解説

のみ。右腕を缺失す。

その表現法より見て、「人間よりは寧ろ他の動物を聯想せしむべく、拜物的思想により人間以上のある物を表的せむとしたる當時の民族心理を推察せしむるものなり」(考古學雜誌八ノ十二)と説かれしが如く、一種の動物崇拜を語る遺物たるべし。

(292) 石器時代土偶

信濃國小縣郡丸子町大字腰越發見。圖版向つて右は完形せり、高さ一尺二寸一分。丘陵の突端が之を廻る川に接するところ、地下三尺に於いて、岩と土との間に正座せしを發見せしといふ。普通石器時代土偶に見るが如き兩脚を有せずして、腰部以下を膨らまして平らに切り、内部空虚、兩腕は形式化し、手首のあたりに孔をあけたり。胴部に重ね菱の文様あり、頸は著しく長く、顔面は皺多くして、老人の顔容あり、頭髮の手法亦奇異。男子土偶なるべし。向つて左は頭部及腕を缺失して胴體のみなるも、前者と同一型式なるを察知せしむ。乳あるに見て、女子とみなすべし。高さ現存部一尺五分、もし完形せば稀に見る大形のものならん。前者に伴出せり。

293 石器時代土偶(鈴木豊之助氏所贈寫真)

陸前國杜鹿郡沼津貝塚發見。兩腕を缺失せり、女子土偶なるべし。乳房の大なる、陰部の誇張せられたる、こゝに生殖器崇拜を聯想せしむるものあり。高。

294 石器時代土偶

圖版向つて右は下總國千葉郡六通村發見、左は下總國北相馬郡文間村字立木下臺發見。前者は兩手及隻脚を失へり。顔面手法巧ならず、耳は圓形に現せり。胸部には乳房を著しく大きく現せるの外、何等の裝飾なし。高さ三寸二分。後者は未成のものか、顔面に頸の隆起線を示すのみにして、眼・口・鼻等を全くかく。長さ三寸三分。

295 石器時代土偶

1は下總國千葉郡六通村發見、高さ三寸四分、表現、頗る可異なり。即ち顔面は三角形に近く、眉及頸にあたるところを隆起線を以て著しく現し、頭部を極めて小さくせり。眼及び口の著しく大なるを見る。胸部以下の手法は之を缺失せるもの多きを以て明にする能はず。2は下總國千葉郡平山村發見、胸部以下を失へり。

2は下總國千葉郡平山村發見、頸部以下を失へり。一見木莖を現せるが如き顔面の手法は石器時代土偶に往々見るところなり。耳・目のみを著しくして、鼻は僅かに線を以て之に代へたり。目の周圍を繞る點線は、或は線を示せしものか。遮光器を稱せらるゝもの、多少之に似たるも、吾人は兩者をともに、彼のオーストラリア土人に往々見る眼邊を繞らす一種の裝飾を聯想するの却つて興味あるを想ふを以てなり。

296 石器時代土偶

1は羽後國河邊郡四ツ小屋村字小阿地遺蹟に於いて發見せしもの、小阿地については、余の概報あり。(考古學雜誌十三ノ四)、高さ三寸六分、手法猿を聯想せしむるものあるも、表情の技の拙なるによるべし。眼は著しく小、口は四角に切れり。胸部以下も簡單にもものし、胸につけたる隻腕の如きは只太き隆起を以て代へたり。生殖器を著しく現せしが、恐らく陰部を思惟せらるゝも、乳房を缺如せるを以て断定をさくべし。手法の拙なるものにして、採れり。

2は陸奥國西津郡館岡村大字龜ヶ岡字龜山發見のもの、完形せり。長さ三寸五分、眉稜隆起す。口邊の左右端にある三角形の線刻は、今のアイヌの婦人に見る跡を思はしむ。

乳房小さく、陰部は腰邊にまこはせし带状散點文に被はれたり。

297 石器時代土偶及岩盤

1は陸奥國中津輕郡野村大字十腰内發見、胸部のみを存し、これが著しく扁平なるを見る。乳房の大なるに比して、陰部は小さく現されたり。土偶と土盤とは關係あるべしとする所説は妥當なるべく、本圖の如きはその中間型式とみなすべし。高さ現存部三寸二分。

2は發見地を明にせざるも、佐藤初太郎氏舊藏品として秋田圖書館に藏せらるるもの、軟かき輕石質の石製にして、表裏共に中央に線を劃し、その左右に拙なる曲線文を表せり。一孔あり。岩盤ともいふべく、土盤に比して類品稀なるを見る。

298 石器時代土偶

1は羽後國南秋田郡大久保村新關(狐森)發見のもの、同村某氏の珍藏品たり。2はその背面を示せるもの全體に黒色を呈し、よく磨かれたり。内部空虚にして、かつ胸部にて折れ、そこに大なる孔をあけたり。一見、普通のものに手法を異にし、かつ製作の巧なるに見て、偽物ならんか。

疑ふものもあるも、發見地點を明かにし、かつ所謂蒐集家の藏品にも非ず、農夫が耕作の際發見せるものにして珍藏するものなるを以て、暫く之を信じてこゝにのせたり。3は武藏國荏原郡調布村大字下沼部發見、首部及脚部を缺失せり。現存部高さ三寸、乳房及び陰部著しく大に、腹部のふくれしは妊娠を現せるものならんか。4は陸前國加美郡宮崎村字旭壇發見、胸部以上を缺如せり。長さ二寸六分、5は陸奥國二戸郡福岡町字小鳥谷發見、首及び左手を缺失、長さ一寸一分、乳房の大なるを以て、女子とみなすべし。恐らく土偶としては最小の型式たらんか。6は下總國北相馬郡文間村發見、胸部のみを存せり。乳房著しく大なり。現存部長二寸三分、7は武藏國荏原郡大井町字權現臺發見、左脚のみを存せり。

299 石器時代土偶首

土偶首のみあつめたり。圖版1は下總國堀の内貝塚發見、眼及び口を大きく丸く現はし、繞らすに點線を以てせり。耳の隆起は或は白形耳飾を示せるものか。高さ三寸。2は武藏國荏原郡大井町大字權現臺發見、手法前者と略ほ似たり。高さ二寸。3は常陸國新治郡中家村字上高津發見、顔容全く木莖に似たり。高さ二寸一分。4は上野國新田郡

(74)

第三十集 解説

世良田村大字米岡字南郷發見、高さ一寸七分五厘、5は下
總國猿島郡岩井町大字岩井發見、高さ二寸、6は3ミ發見
地を同じうす、口を缺けり。高さ二寸。

300) 石器時代土偶首

1は上野國世良田村字南郷發見、頭髮の右部を缺けり。
高さ一寸九分。2は陸中國膽澤郡水澤村字小綱發見、高さ
一寸四分、3は下總國千葉郡六通村發見、顔容よく整へり。
高さ一寸四分、4は武藏國荏原郡大井町大森貝塚發見、高
さ一寸九分、5は陸中國膽澤郡佐倉川村大字下河原字根岸
高さ一寸五分、6は陸前國加美郡宮崎村字旭壇發見、高さ
一寸二分。

石器時代土偶
(藏館物博室帝京東)

291



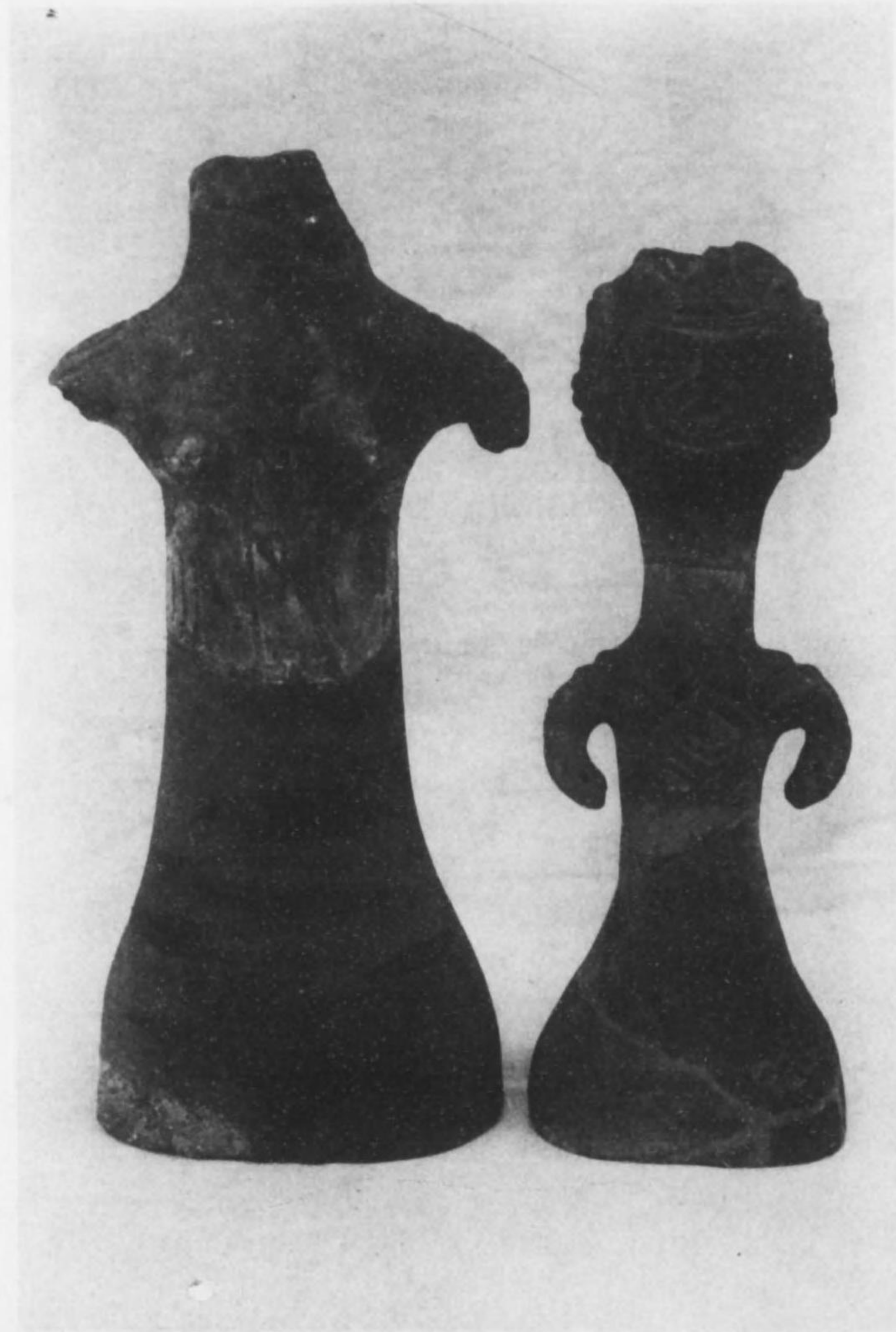
第三十集
石器時代土偶



1200601101913

石器時代土偶
(藏館物博室帝京東)

292



第三十集 (石器時代土偶號)



1200601101913

石器時代土偶
(藏氏助之豊木鈴)

293



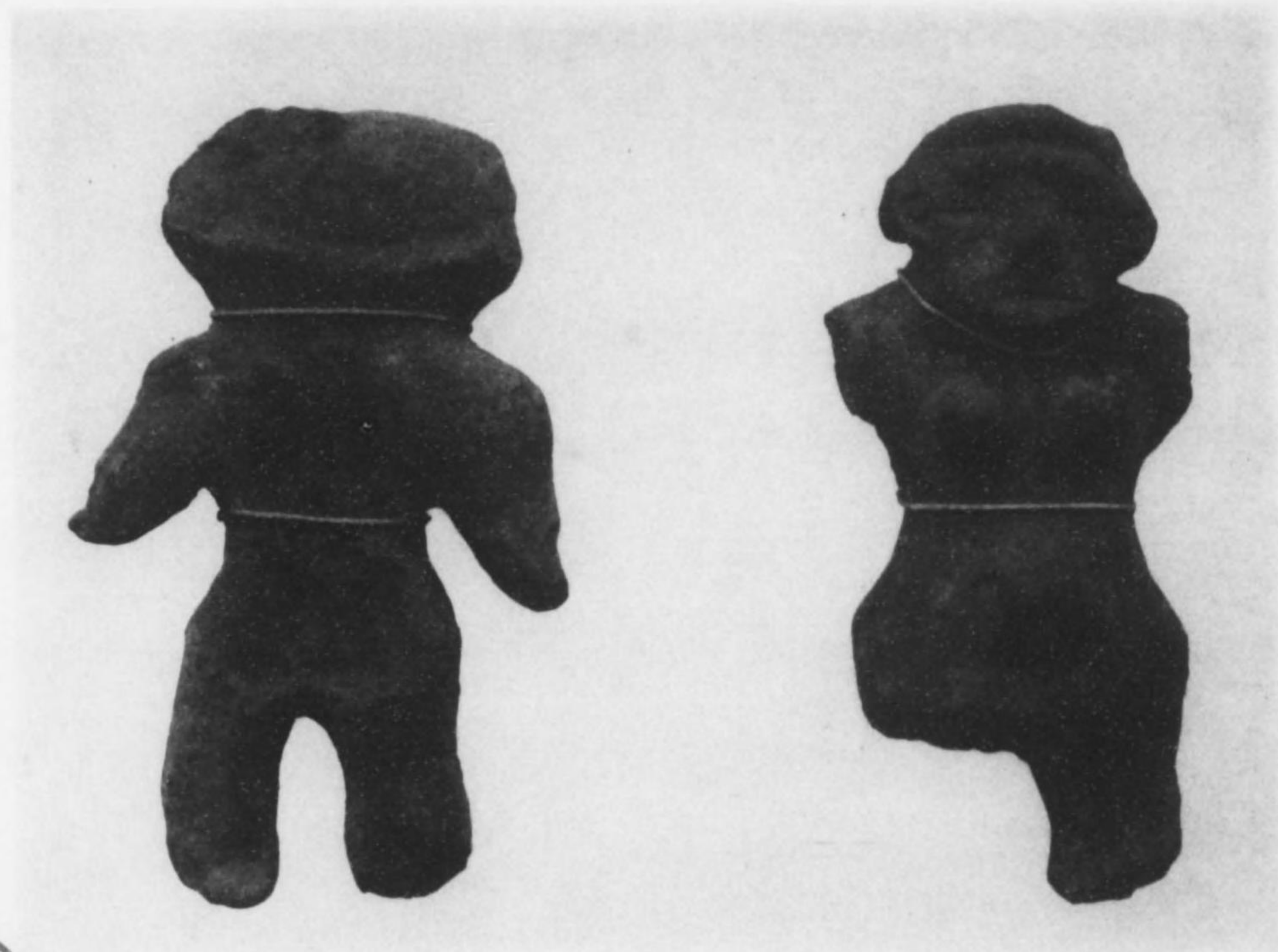
第三十集 (石器時代土偶類)



1200601101913

石器時代土偶
(藏館物博室帝京東)

294



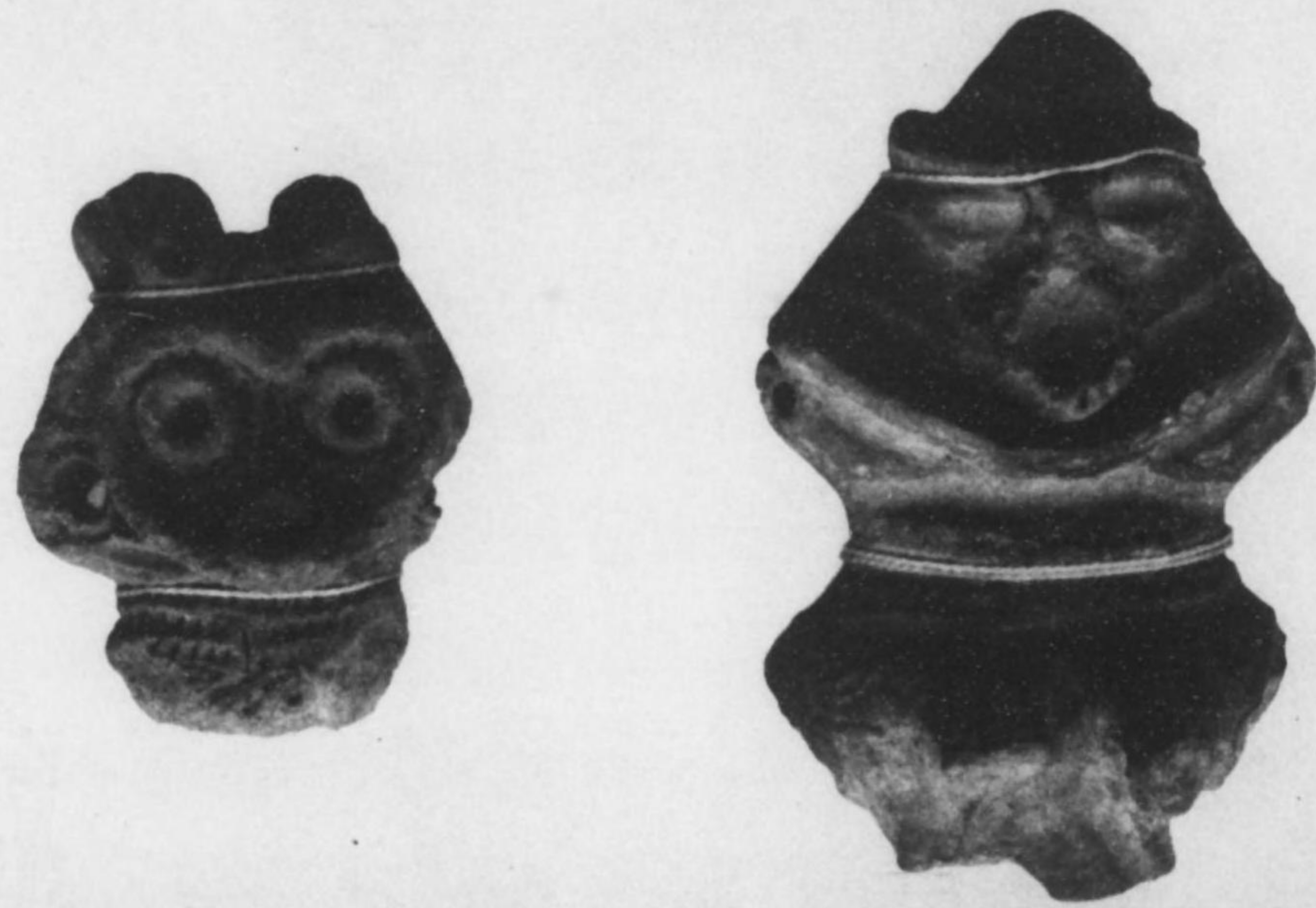
1200601101913

第三十集 (石器時代土偶號)

石器時代土偶

(東京帝國博物館藏)

295



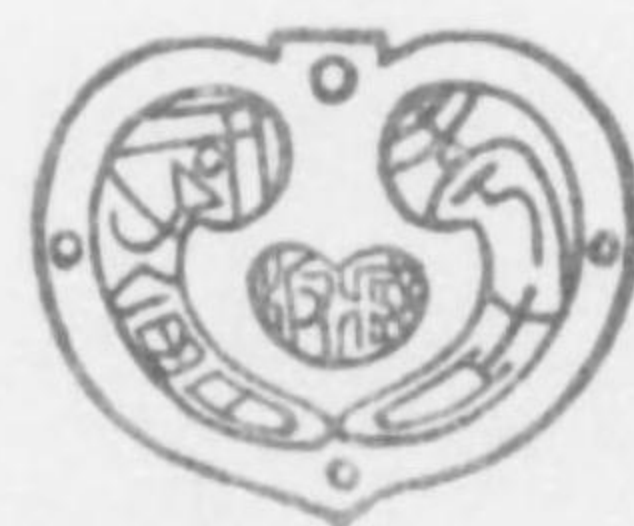
1200601101913

第二十集 (石器時代土偶號)

石器時代土偶

(東京帝國博物館藏)

296



1200601101913

第三十集 (石器時代土偶)

磐岩及偶土代時器石
(藏館物博室帝京東右)

297



1200601101913

第三十集 (石器時代土偶號)



第三十集 (石器時代土偶號)

1200601101913

石器時代土偶首
(東京帝國博物館藏)

299

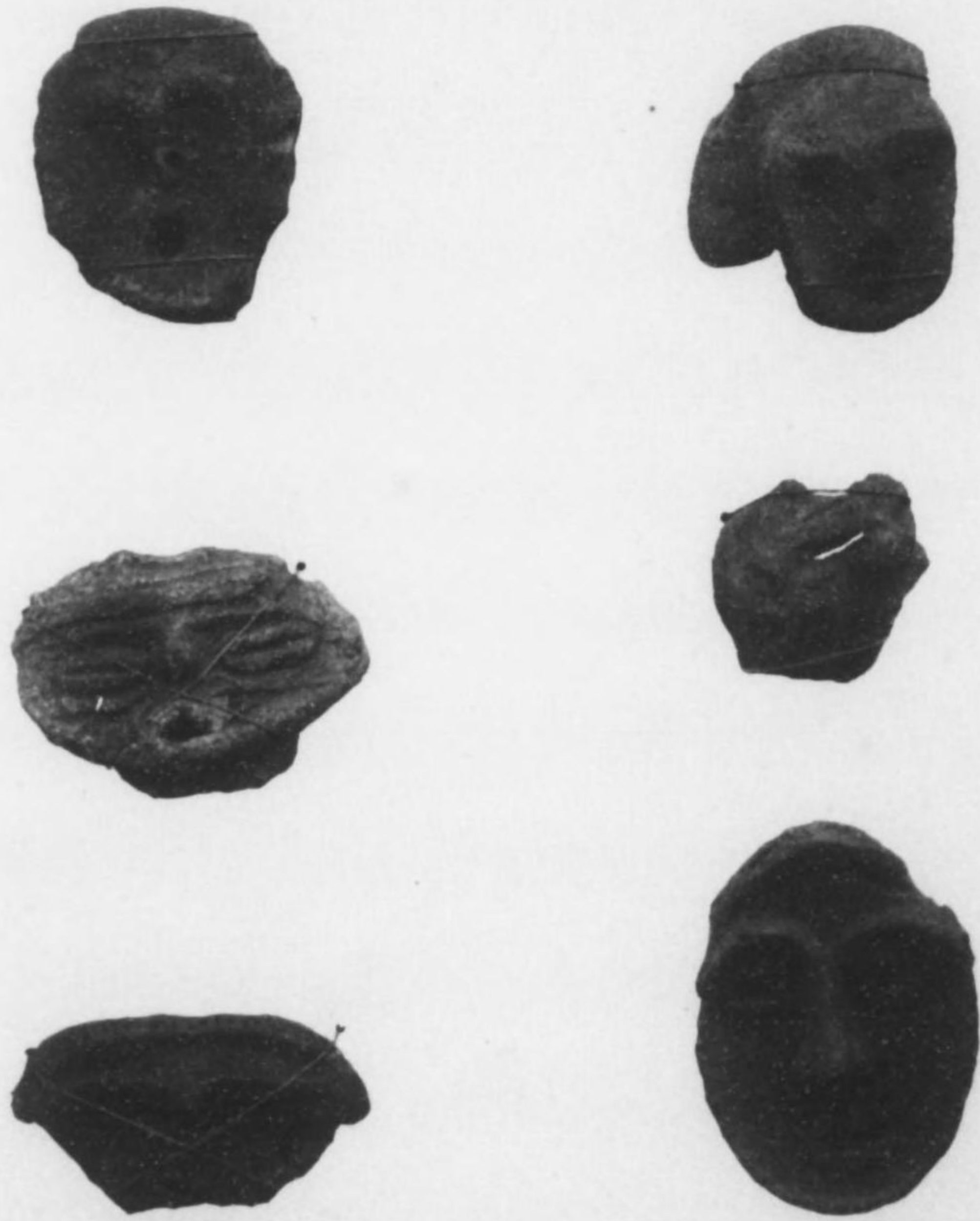


1200601101913

第三十集 (石器時代土偶類)

石器時代土偶首
(東京帝國博物館藏)

300



第三十集 (石器時代土偶首)



1200601101913

終